

編集発行・大田原市森林組合 栃木県大田原市黒羽田町 222
TEL 0287(53)1212(代) FAX 0287(54)2877
メールアドレス forest04@jf-ohtawara.or.jp

印刷・(株)近代工房



【特集1】

- 第41回通常総代会開催

【特集2】

- 低コスト林業への動き

【各種案内】

- 新人職員紹介
- 補助事業紹介
- 共販市況外
- お知らせ



下刈機のデモ風景

【特集】 第41回通常総代会開催

去る6月22日（火）大田原市森林組合 大会議室において
総代ならびに来賓の皆様にご出席いただき 開催することが出来ました



去る令和3年6月22日、大田原市森林組合第41回通常総代会を大田原市森林組合大会議室において開催しました。

本年度も新型コロナウイルス感染症対策として総代の皆様に書面による議決をお願いし、縮小開催となりました。

植竹代表理事組合長の挨拶に続き、議長に大田原地区の遠山勉氏を選任し、令和2年度決算関係、令和3年度事業計画書等提出された全案件は原案どおり可決承認されました。詳細は別途配付させていただいた総代会資料をご覧ください。



受賞者紹介

■大田原市森林組合長表彰

☆木材出荷協力者

鈴木 安幸 様

北滝森林同盟会
帝國造林株式会社

様 様

☆森林保険事業

契約協力者 関谷 忠 様

☆優良技能班員

中川 将徳 様
藤田 悟 様

☆永年勤続（40年）

見越 広美 様



北滝森林同盟会 様



鈴木 安幸 様



藤田 悟 様



帝國造林株式会社 様

組合長就任挨拶



代表理事 組合長
植竹 雅弘

本年度は役員任期満了に伴い改選となりました。役員選任規定に基づき、各地区推薦会議において推薦された理事11名、監事3名が投票により選任されました。また総代においては、去る5月24日に審査会を行い、立候補者と定数が同数だったため、投票を行わずに当選となりました。

去る6月22日開催の当組合通常総代会並びに理事会において、代表理事組合長に再選され就任致しました植竹雅弘です。組合員の皆様におかれましては日頃より組合運営及び各事業にご協力頂きお礼申し上げます。さて、昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大により事業全般の活動が抑制されておりますが、この様な環境下、林業・木材産業界においては昨年の製材業者の買い控え、又は昨今の輸入木材の大幅な減少によるいわ

ゆる「ウッドショック」に伴う、木材価格の乱高下等、非常に不安定な状況になっております。大田原市森林組合と致しましては、これらのあらゆる変化に対応して山林所有者である組合員皆様の利益を最優先に各事業を推進して参ります。そのためには特に伐採から植付、下刈等の一貫施業と集約化施業等を行い組合の優位性を十分に活かすことが重要であります。組合員の皆様におかれましては、所有山林の伐採又は、売却、譲渡や相続等のご相談やご質問、どんなことでも組合にお申し付けください。「森林組合に頼んで良かった」と皆様に喜んで頂けるよう、全力で努めて参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

新役員



理事
稲野 正文



理事
鈴木 安幸



理事
益子 利之



代表監事
屋代 恵一郎



代表理事副組合長
三森 静治



理事
笹沼 保治



理事
松浦 正則



理事
鈴木 基允



理事
菊池 格



理事
佐藤 勇

これから宜しく
お願いいたします



監事
高橋 秀造



監事
蓮實 常夫



理事
新江 和平

新総代・参与

次期改選までの三年間、宜しくお願い致します。
(敬称略) (〇印参与)

第一区須賀川地区
(六十五名)

- 須佐木上
- 磯飛 勉 佐藤 祐一
- 三森 安男 〇金丸 昌弘
- 藤田 和恵 益子 哲雄
- 須佐木中
- 〇益子 正幸 益子 芳郎
- 戸村 貞夫 熊倉 操
- 渡邊 脩司
- 須佐木下
- 佐藤 一彦 佐藤 貞夫
- 〇外池 孝義 〇佐藤 長次
- 大塚 幾夫 益子 盛夫
- 〇佐藤 克己 佐藤 瞳
- 佐藤誠一郎
- 雲岩寺
- 〇大塚 龍樹 渡邊 弘
- 和田 正明 和田 史郎

- 露久保
- 〇鈴木 春寿 鈴木 孝二
- 鈴木 洋彰
- 川上
- 〇益子 充夫 佐藤 昇一
- 佐藤 トシ 佐藤 晃一
- 南方
- 〇佐藤 輝治 菊地 孝夫
- 佐藤 力三 〇鈴木 正夫
- 鈴木 正一 鈴木 光秀
- 須賀川上
- 〇菊池 徹 鈴木 清治
- 高野 堅氏 菊池 正英
- 〇菊池 久光 谷地 信一
- 須賀川中
- 〇小西 孝夫 川嶋 隆夫
- 木村 正秀 〇菊池 富也
- 佐藤 憲一 菊池 秋男
- 〇屋代 眞文 菊池 健志
- 菊池 戦一
- 須賀川下
- 〇川嶋 紀子 大高 一紀
- 屋代 文雄 〇藤田 隆雄
- 屋代 知美 〇屋代 淳
- 屋代 幸子 〇嘉藤 孝男
- 菊池ひろみ 屋代 良造
- 〇湯本 一男 大室 一郎

屋代 憲一

第二区黒羽地区
(六十六名)

- 黒羽田町
- 〇佐藤 宏 室井 良則
- 〇田町区有林 鈴木 新一
- 前田
- 〇平山 久 石川 紀子
- 黒崎 和雄 奥沢 徹
- 〇三森 隆 石川 隆幸
- 堀之内
- 〇佐藤 威夫 川上 靖寿
- 小室 正善
- 北野上北区
- 〇関屋 充雄 松本 正明
- 三森 恒一 鈴木 健一
- 〇石川 精一 田代 浩一
- 猪野 勝義
- 北野上南区
- 〇小藤 和夫 佐川 伸一
- 佐藤 邦博 〇川嶋 雅彦
- 伊藤 昭 〇屋代 富夫
- 井上 正大 佐藤 仁可
- 〇荒牧 量 荒牧清太郎

- 八塩
- 〇瀧本 忠 丸山 一雄
- 北滝
- 〇丸山 明雄 黒澤 昭治
- 古森 俊一 佐藤 英雄
- 〇阿見 芳 阿見 学
- 齋藤 正雄 齋藤 一馬
- 齋藤 義昭 関 清寿
- 片田
- 〇齋藤 淳一 齋藤 雅之
- 齋藤 一広 田代 延夫
- 〇齋藤 文昭 磯 昭治
- 齋藤 市男
- 亀久
- 〇宮崎 宏美 吉成 和一
- 吉成 信一 〇菊池 保
- 蓮實 芳守 関口 賢
- 〇大金喜一郎 大金 克美
- 矢倉
- 〇大金 恵二
- 黒羽向町
- 〇鈴木 和夫 本澤 正行
- 星 哲男
- 大豆田
- 〇佐藤 孝子
- 蜂巢
- 〇室井 健二

○ 松木 沢
○ 菅生 賢治
寒井
○ 矢村 義則
白井 宗治

第三区両郷地区

(四十四名)

中野内

○ 菊池 正美

○ 小泉 善弘

○ 三森 清史

○ 松本 千村

○ 関谷 保男

河原

○ 五月女 光男

○ 高倉 孝

○ 弓座 敏夫

○ 井上 一義

石川 宇一

両郷

○ 益子 正則

○ 伊藤 武

寺宿

○ 鈴木 義彦

○ 瀧田 大

○ 岡野 忠雄

○ 益子 一郎

○ 鈴木 一栄

高崎 忠

石川 文男

関谷 昭一

関谷 芳則

関谷 伸一

渡辺 隆一

伊藤 栄作

鈴木 敬一

菊池 伸幸

木佐美

○ 益子 照雄

○ 大久保

○ 綱川 勲夫

○ 渡邊 昭雄

久野又

○ 佐藤 三男

○ 高梨 政夫

田代 良博

大輪

○ 小室 徳宝

○ 生田目 一延

室越 新市

川田

○ 加藤 勝

大塚 和男

第四区大田原地区

(二十五名)

大田原

○ 稲村 宗一

金田

○ 岸 晃一

○ 菊池 隆雄

○ 新江 章平

○ 印南 久雄

○ 小山田 正幸

○ 藤田 清

関谷 栄一

手塚 桂治

池澤 高

吉成 一豊

大野 幸一

○ 大森 清五

矢板 肇明

荒井 一夫

櫻岡 清孝

佐久山

○ 大島 善夫

○ 高瀬 隆至

○ 青木 茂男

藤沢 茂

○ 加藤 茂

宇田 貢

遠山 勉

親園

○ 佐藤 勝

野崎 久

○ 松本 久

湯津上

○ 深澤 邦道

那須塩原

○ 柳 みよ

戸村 道範

泉田 純一

橋本 憲雄

○ 中野 国男

八木澤 秀男

渡辺 敏秋



退任された役員

組合運営にご尽力いただき誠にありがとうございました。大変お世話になりました。引き続きご指導の程宜しくお願いいたします。



理事 青木 茂男





低コスト林業への動き

皆伐はしたいけど植付や下刈といった造林事業が負担に。そんな造林事業の国や当組合の低コスト化への動きを紹介。

伐採から造林までの一貫施業



今までは伐採、地拵え、植付を別々に作業することが当たり前。地拵えや苗木運搬は人力で、裸苗の植付は春のみ。伐採と地拵えでそれぞれ機械を搬入したり、伐採から植付まで期間が開くと草が伸びてしまったりと、何度も手間がかかっている。国では造林時にも伐採時の機械を活用、植栽できる期間の長いコンテナ苗を導入し、伐つたらずく植えるという取り組みも行っている。当組合でもできる限り行っているが、伐採と造林で業者が違うことも多く、業者同士の連携も必要だ。

コンテナ苗の活用

コンテナ苗は依然として裸苗より価格が割高。しかし国のまとめによるとha当たりの植付コストは裸苗より2割程度削減可能だそうだ。当組合ではスギやヒノキは昨年からすべてコンテナ苗に移行し、春や秋を中心に約60haの植付をしている。裸苗に比べ小さく弱そうに見えるが、植林時期を見誤らなければ活着も良くダングン成長している。



植栽本数や下刈方法の見直し



国では植栽本数を減らし苗木にかかる経費を削減する取り組みも検討されている。問題になるのが下刈。植栽本数が少なくなる程、林冠が閉鎖するまで時間がかかり下刈が大変になる。下刈を省力化する方法としては夏以外の時期に下刈を実施、全刈りではなく筋刈りに変更するなど検討が行われている。

機械を使用して低コスト化へ

【造林関係】
7月26日県主催のドローンを活用した苗木などの運搬や薬剤散布研修会、7月28日国主催の高圧洗浄機を利用した下刈の現地検討会に参加した。当組合では7月19日・28日に株式会社アテックスと株式会社新宮商のラジコン下刈機、7月27日に株式会社筑水キヤニユムの手押し下刈機のデモンストレーションを行い、下刈の低コスト化を検討している。ラジコン下刈機や手押し下刈機は、切株の有無や傾斜などの関係で思うように動かず、地拵えの段階で準備が必要だ。



【林産関係】
昨年10月19日から約2か月間、日立建機日本株式会社のICTハーベスタをレンタルした。外見は一般的なハーベスタと変わらないが、車内はパソコンのキーボードやモニター、複数のボタンがあり車内で事務仕事が出来そうな雰囲気。違いは丸太の末口にマーキング、造材した材積を測り、結果を事務所と連携できること。事務所ではその結果をもとに売り先との交渉に活用できる。今までは土場で末口を揃え、末口径を測り材積の計算をしていたが、その手間が省くことができる。金額も高額なため購入まで至らないが、今後も低コスト化の検討を進める。



労働災害防止への取り組み

林業の現場は3K、全国的に高い労働災害率。産業活動を優先し、安全対策や安全教育の形式化など安全軽視が労働災害へとつながる。当組合では幸いなことに蜂刺され、滑落などの災害は起きていないが、死亡災害はない。技能職員の安全への意識がこの結果に繋がっている。月一回の労働安全衛生講習会では災害事例などの紹介、ヘルメットや防護服、空調服などを装備し、安全対策や熱中症対策に取り組んでいる。また人材育成に力を入れており、入社から2年目までは、効率より基礎技術を身に付けるための研修期間としている。これからも従業員の命や生活を守るよう努める。



林業経営改善事業 成果発表会

2月2日栃木県林業センターにて公益財団法人とちぎ環境・みどり推進機構主催の林業経営者育成事業の成果発表会に当組合から組合長をはじめ他3名で参加した。昨年8月から1月まで活動した成果を『風通しの良い組合を目指して』というタイトルで大金林産課長が発表した。お客様への初期対応の向上と職場

内の連絡不足解消について取り組んだ。具体的には受付簿の整備と月一回の朝礼や週一回の打合せ、月一回の技能職員との打合せだ。取り組んだ内容は当たり前のことだが、今までは決まりがなく、担当者によって対応が変わってしまう曖昧さがあった。この事業をきっかけに担当者だけでなく事業所内で情報を共有しお客にも働く人にも風通しの良い組合になるよう取り決めた。発表会の様子は「林ナビとちぎ」<https://toc.higi-rinna-v.jp/>で紹介されているのでご覧下さい。



緑の雇用事業

『緑の雇用』事業は林野庁の補助事業で全国森林組合連合会が主体として行っている。採用前、1〜3年目はフォレストワーカー、5年以上はフォレストリーダー、10年以上はフォレストマネージャー、林業未経験からキャリアアップまでさまざまな技術を身につけられる研修プログラムがある。当年度は、当組合から採用後1年未満の4名がトライアル研修、1年以上の2名がフォレストワーカーの1年次研修、2年以上の6名がフォレストワーカーの2年次研修、2名がフォレストリーダー研修に参加する。

同事業を活用し、今後も担い手の育成に努める。



現場指導者養成研修 成果発表会

昨年8月25日に栃木県林業センターにて公益財団法人とちぎ環境みどり推進機構主催の現場指導者養成研修の成果発表会に当組合から技能職員の2名が参加した。現場指導者養成研修は同年7月に計8日間の研修、研修終了後に各職場で8日間のOJTを行った。この研修の目的は新規就業者などに正確に技術を伝えるための指導方法を身につけること。今までの新人教育は、見て覚える、が当たり前で、いざ新人を指導する立場になり改めて言葉で伝える難しさを感じる。この研修では伐倒の基礎を身に付け、指導方法を学んだ。研修終了後の森林組合の日行事中に研修の報告をしても良かったが、2名は今まで以上に頼もしさを感じた。



山林買取と林地供給事業

当組合では山林を手放したいという森林所有者から山林を買い取っており、昨年は約40haの山林を取得した。今までも林地供給事業で山林を手放したい方と求めたい方の仲介を行っているが、双方のマッチングが難しく話が進まないことが多かった。森林組合法の改正で、森林組合も山林を購入できるようになり、買取依頼があれば話を進めている。山林の多くは皆伐後に植林をしていない裸山で、森林環境保全のため買取後に補助事業を活用し植林と下刈を行っている。今後も依頼次第だが買取の検討を行う予定。

コラム

関係団体の活動紹介

大田原市林業振興会

当組合が事務局を務める大田原市林業振興会は、平成25年度から里山林景観を維持するための活動として森林・山村多面的機能発揮対策事業を行っている。この事業はとちぎ環境・みどり推進機構が窓口で、3年ごとに申請手続きを行う。具体的には亀久・河原大輪地内の里山林の下刈。作業後は見通しが良くなり見えていますがすがすがしい。事務所周辺の管理も行っている。同会は森林に関心のある森林

所有者を中心に組織され、人数に変動はあるが現在会員22名、家族会員4名、賛助会員3名で活動中。例年では市内の小学生を対象とした森林教室や芭蕉の里くろばね秋まつりへの出店も行っていたが昨年は中止となった。



とちぎの木を活かす女子の会
〜木輪〜

栃木県環境森林部林業木材産業課が事務局を務める、とちぎの木を活かす女子の会〜木輪〜は、栃木県内の木材利用に関心のある女性などで県産材のPR活動を行っている。当組合からは1名活動に参加している。昨年はイベントの中止も多く、主にSNSを活用した情報発信を行い、12月6日には鹿沼の山林で山仕事体験と、採取したヒノキの葉を使ってスワッグづくりを行った。同会は平成28年から活動を始め、現在は会員数41名、賛助会員4名で活動を行っている。現在も会員募集中。



新人職員紹介



右から
 細田 敏行 (ほまた としゆき)
 橋本 博之 (はしもと ひろゆき)
 中村 健人 (なかむら けんと)
 柳澤 郁吾 (やなぎさわ いくみ)
 谷口 正俊 (たにぐち まさとし)
 荒井 聡 (あらい さとし)

の6名が入りました。これから宜しくお願いします。

補助事業紹介

山の手入れ(植付・下刈・枝打ち・間伐・作業道開設など)を行うと補助金が交付される場合がある。補助の対象か、補助金額がいくらくらいになるかは条件によって変わるので、作業前に問い合わせの上、見積を依頼して下さい。作業にかかわらず組合で策定している森林経営計画の中に、現況および施設計画が記載されていないと補助対象にならないので注意下さい。

森林・山村多面的機能発揮対策事業では侵入竹の伐採・除去活動などのメニューがある。活動組織の設立が必要になるので詳細はお問い合わせ下さい。

ウッドショックと共販市況

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、海外の住宅事情や原料供給に変化が。それに伴い木材需要が増加し世界的に木材価格高騰が起きている。「オイルショック」になぞらえて「ウッドショック」と呼ばれ、国内の丸太や製材価格も上昇している。大田原木材共販所では月によって波はあるものの、平成30年7月の平均単価11,500円/m³に比べ今年7月は15,000円/m³と、約3割高になっている。いつ頃までこの状態が続くか不透明だが、このまま国産材需要が増え、価格が安定することを望んでいる。「高値の内に!」と、至急施業をして欲しいという方もいるが、労力や機械に限りがあるので施業集約化を進めながら順に施業していく予定。お待たせすることもあります。ご了承を頂きます様お願いします。

大田原木材共販市況

共販日(九月二十二日)

樹種	長級 長さ(m)	径級 末口(cm)	単価		2年度同月単価対比	
			平均(円)	高値(円)	平均	対比率
スギ	3	11~14	8,040	13,210	8,110	99%
		16~20	10,000	17,240	10,000	100%
		22~28	14,640	17,580	10,100	145%
	3.65	22~28	13,400	13,400	12,720	105%
		30~	11,200	11,200	12,600	89%
	4	10~14	13,500	13,800	12,170	111%
		16~20	—	—	11,100	—
		22~28	12,000	15,400	13,330	90%
ヒノキ	3	11~14	9,000	12,210	8,000	113%
		16~28	20,000	27,000	13,380	149%
	4	10~14	13,000	21,800	15,470	84%
		16~20	24,500	28,590	18,150	135%
		22~28	26,000	28,500	17,180	151%

*市況及び入荷状況

平均単価 16,808円/m³(販売量 1,697m³ 販売率 100%)

今回も出材量は少なめでしたが、ヒノキの割合が多く平均単価も上昇しています。スギは全体的に弱保合いですが、ヒノキは値上げ傾向にあります。来月は展示会も控えており入荷は増える予定です。

栃木県優良木材(素材)展示会開催予定

10月21日に大田原木材共販所にて、栃木県と栃木県森林組合連合会主催の栃木県優良木材(素材)展示会が開催される。出品物は県内民有林産のスギヒノキアカマツ・サワラに限定されるが、広葉樹や大径材など普段の共販には並ばないような原木の買い付け業者も来る。それらの木を伐採予定の方は、この機に出展してみてもどうか。次回の展示会は来年3月を予定しています。



狩猟を始めてみませんか?

栃木県では8月1日、10月17日、11月14日の年3回狩猟免許試験が実施される。網猟・わな猟は18歳以上、第1種猟銃・第2種猟銃は20歳以上であれば受験でき、事前講習会も開催されるので試験の予行演習も行える。申請は居住地を所管する各環境森林事務所、大田原市内に居住されている方は
 県北環境森林事務所
 TEL0287-23-6363へ



総務課からのお知らせ

相続加入や住所変更、その他変更がありましたら組合までご連絡ください。

林業後継者届

組合員の方が亡くなり市役所で相続手続きが済んでも、組合とは連携されていませんので、名義変更の手続きをして下さい。

面積変更届

山林を売買され山林所有面積に変更が生じた際、所有面積変更の手続きをして下さい。

※各種届出用紙は組合に用意してあります。また、ホームページからダウンロードもできますので、ご活用下さい。

森林の管理について お悩みの方は...

山林を相続したが管理の方法がわからない、山林の場所がわからない、山林を売却したい等、山林に関するお問い合わせは当組合へご相談ください。

